

フリースクール家の中から

コロナ禍による長期休校中、不登校の子どもたちの居場所づくりに取り組むフリースクールでも、オンラインで朝の会や自習室を開いてきた。リアルな居場所を再開しても、オンライン支援を続けるフリースクールもある。関係者は子どもたちに「しんどくなったなら、いつでもおいで」と呼びかけている。▼1面参照



フリースクール閉室中は利用者同士がZoomでつながり、会話やゲームを楽しんだ。千葉県習志野市の「ネモちば不登校・ひきこもりネットワーク」提供

外に出られない子 オンライン支援



無料自習室

「やっほー。いつも通り来た人から取り組んでくださいねー」

3日午後6時過ぎ、画面に続々と入ってきた子どもをスタッフが迎える。滋賀県草津市のNPO法人「D.Live」が開いたオンライン自習室だ。休校中の学びの場になれば、とウェブ会議システム「Zoom」を活用し、4月末から無料で提供してきた。

「今日は数学します」「私はレポートやります」。それぞれがチャット欄に勉強内容を書き込み、黙々と机に向かう。学習面の質問や進路相談があれば、個別の「ルーム」を開く日もあるという。自習室は平日の週2回、

午後6時から1時間半。毎回、小学5年から高校3年までの10人前後が利用している。参加していた高1の男子生徒(15)は「絶対に勉強すると決めた時間ができて良かった」と話した。オンラインを活用するまでは、家から出られない子やフリースクールにも来れない子どもには、支援しようにも手を差し伸べられなかった。同法人の代表理事、田中洋輔さん(35)は「リアルな場は無理という内気な子には入りやすい面もある」と話す。

遊びが大事

学校再開後に授業のペースが上がり、登校がつかなくなる子が増える予想される。田中さんは「学校に行く子も行ってない子も、勉強しながらスタッフに愚痴を話せる場として自習室を続けたい」と言う。福島県会津若松市のNPO法人「寺子屋方丈舎」は5月、「休校が明けて悩む子が増えるいま、全国に門戸を開きたい」と、小中学生向けのオンラインフリースクールを始めた。週2

日、1回1時間、スタッフとZoomでつながり、音楽やゲームなど好きなことをする。ただ、オンライン特有の難しさもあるという。事務局の小関翼さん(31)は「呼吸を合わせつつ会話の間合いを取るのが難しく、感情がわかりにくい面もある」と話す。

登校に意欲

オンラインとリアルを組み合わせる支援をしてきたフリースクールもある。小中学生ら15人が通う神戸市の「ForLife」では、5月下旬までの3カ月間、オンラインスクールを週4日開いたほか、職員が家庭訪問をした。

5月に入ると、複数の中学生から「学校に行ってみようと思う」と連絡があったという。運営するNPO法人「ふぉーらいふ」の理事長、中林和子さん(73)は「周りも皆休んでいたのに、少し気が楽になったの

かむ」と話す。多くの自治体では夏休みの短縮や土曜授業の実施が予定されている。中林さんは、学校や保護者が「学習の遅れを取り戻そうと、子どもたちを追い詰めてしまわないか心配だ」という。子どもたちにも「言いたい」「学校が始まってまたしんどくなったなら、いつでも戻ってきていいよ」(西村悠輔)

子どもたちを追い詰めてしまわないか心配だという。子どもたちにも「言いたい」「学校が始まってまたしんどくなったなら、いつでも戻ってきていいよ」(西村悠輔)